

「外来環」「か強診」「歯援診」認定研修会

「口腔機能低下症（オーラルフレイル）・ 摂食嚥下障害を学び適切で安全な （在宅）歯科医療を提供する！」

2022/1/20（木）～
（1ヶ月間 WEB 配信）



岩淵 博史 先生

国際医療福祉大学病院
歯科口腔外科教授



菅 武雄 先生

鶴見大学高齢者
歯科学准教授



石井 良昌 先生

日本歯科大学客員教授



花田 信弘 先生

鶴見大学名誉教授



石垣 佳希 先生

日本歯科大学附属病院
総合診療科教授



豊福 毅 先生

口腔機能向上推進
協会理事長

今年度の健口管理士認定研修会は、超高齢社会における大きな社会的問題の一つである「在宅歯科診療」と「口腔機能低下症」をテーマとして取り上げます。

「在宅歯科診療における摂食嚥下障害」の第一人者である鶴見大学高齢者歯科学准教授 菅武雄先生に認知症を含む高齢者の心身の特性や在宅歯科診療におけるポイント、また「臨床歯科栄養学」の第一人者の鶴見大学名誉教授 花田信弘先生に「高齢期における歯科と栄養の視点や歯科疾患の継続管理の必要性」についてお話し戴きます。また外来環等対応セミナーとしましては、口腔機能低下症、コロナ禍における感染対策、歯科診療における緊急時対策を含めた安全管理対策について解説致します。いずれのテーマも明日からの日々の歯科診療に役立つ内容であると自負しておりますので、どうか奮ってご参加して戴きますようお願い致します。

健口管理士とは？

現在、我が国は社会構造の変化が急激に進行し、あらゆる社会で対策が求められていることは、ご承知のとおりです。特に、医療の世界では超高齢社会に伴う疾病構造の変化に対応が求められ、歯科におきましても何らかの医学的配慮が必要なハイリスク患者に対する対応（含む、在宅歯科医療）、ならびに地域包括ケアシステムにおける多職種医療連携が可能な人材の育成が求められています。そこで、当法人では、現在社会がわれわれに求めている超高齢社会に対応可能な歯科医師の育成を目的とした「健口管理士」制度を設けることに致しました。つまり、医療安全（含む、感染対策）はもとより、ハイリスク患者への対応、粘膜病変を含めた口腔疾患（がん）の診断、そして今後の歯科・口腔医療に必須となるオーラルフレイルから摂食嚥下機能を包括した知識と手技、等を学び、多職種連携が可能な近未来型歯科医療を担うことが可能な歯科医師、歯科衛生士を「健口管理士」と呼び、当法人が認定するものです。

2022.1.20（木）～2.20 （1ヶ月間 WEB 配信）

対象 / 歯科医師・歯科衛生士・スタッフ、口腔機能に関わる医療職

日程 / 2022年1月20日（木）（1月20日～2月20日 1ヶ月間WEB配信）

研修方法 / WEB 配信

受講料 / 歯科医師：健口管理士 10,000円 会員 10,000円 非会員 15,000円

歯科衛生士・スタッフ・医療職：健口管理士 3,000円 会員 3,000円 非会員 5,000円

※詳細には、(NPO) 日本・アジア健康科学支援機構ホームページ (<https://npo-jahso.org/>) をご参照下さい。

定員 / 200名（含む、歯科衛生士50名）

講演内容 program

- 01 開会式 理事長挨拶：今井 裕先生
- 02 コロナ禍における感染対策（感染症対策等の院内感染防止対策等の医療安全対策）
講師 国際医療福祉大学病院歯科口腔外科教授 岩淵 博史先生
- 03 在宅歯科診療における摂食嚥下障害・高齢者の心身特性・認知症対応（高齢者の心身の特性／在宅医療または介護等に関する研修／認知症対応力向上のための研修）
講師 鶴見大学高齢者歯科学准教授 菅 武雄先生
- 04 口腔機能低下症（含む、口腔機能発達不全症・口腔機能管理を含む歯科疾患の重症化予防に資する継続管理／高齢者の心身の特性／口腔機能の管理）
講師 日本歯科大学客員教授 石井 良昌先生
- 05 高齢者の臨床歯科栄養学（歯科疾患の重症化予防に資する継続管理（口腔機能管理を含む）／口腔機能の管理）
講師 鶴見大学名誉教授 花田 信弘先生
- 06 歯科診療における緊急時、偶発症への対応（偶発症に対する緊急時の対応／医療事故に対する対策・対応）
講師 日本歯科大学附属病院総合診療科教授 石垣 佳希先生
- 07 在宅歯科診療における課題対策
講師 口腔機能向上推進協会理事長 豊福 毅先生
- 08 健口管理士の資格取得ならびに更新について
講師 理事長 今井裕先生
- 09 閉会

お申し込みは裏面へ

新興感染症に対する院内感染対策 — 講師 岩淵 博史 先生

COVID-19の原因ウイルスであるSARS-CoV-2は、呼吸器や唾液の飛沫を介して拡散すると考えられているが不明な点も多い。本邦では迅速なワクチン接種の普及により感染の拡大は収まりつつある。しかし、今後第6波への備えも確実に進んでいく必要がある。そのため、唾液が介在する口腔内の処置やケアにおいては可能な限り飛沫やエアロゾルへの暴露を抑え、可能な限りこれらの発生を少なくすることが求められる。歯科医療は、患者との近接、唾液や血液の飛び散りなどから病原体に曝されるリスクが高いため、感染症に対して対応できるスタンダードプレコーションを徹底して行う必要がある。しかしその理解率は平成24年度で30%前後とまだ低い。COVID-19、新型インフルエンザを含めSARS, HIV, HBV, HCV等の感染症の問題は後を絶たず、また近年では、多剤耐性菌による院内感染も起こり、全ての歯科医師にスタンダードプレコーションを導入させることは急務であり、歯科診療所における院内感染制御体制の整備が求められるようになってきている。本講演が歯科医療における院内感染対策の導入の一助になれば幸いである。

在宅歯科診療における摂食嚥下障害・高齢者の心身特性・認知症対応 — 講師 菅 武雄 先生

在宅歯科医療における困難事例として相談を受ける事が多い高齢者の心身特性についてお伝えする。内容は、①摂食嚥下障害および②認知症への対応が中心である。これらのケースは、在宅歯科医療に関わるのであれば、どうしても対応できるようになりたいのであるが、その困難さの根本原因はどこにあるのか、まずはそこから着手する。次に、問題解決に用いるツール類を紹介する。ここで用いるツールは、他職種との連携ツールでもある点に注目頂きたい。すなわち、「自分のクリニックで対応できない」レベルではだめで、「地域で、他職種と連携して対応する」ことが目標になるのである。在宅医療の環境は、急激に変化している。地域包括ケアシステムの構築は急務であり、そこに参画できないクリニックは「地域に存在しない」と認識されてもかたがたない現状がある。アフターコロナを見据えた次世代の在宅医療の姿を想像しつつ、急性期医療との連携や相互バックアップの仕組み、そして現場の緊迫感なども、ぜひお伝えしたいと考えています。

口腔機能低下症（口腔機能発達不全症含む） — 講師 石井 良昌 先生

（歯科疾患の重症化予防に資する継続管理（口腔機能管理を含む） / 高齢者の心身の特性 / 口腔機能の管理）

人生100年時代となり地域包括システムという枠組みのなかで、「若い」に伴い起きる歯や口腔の衰えをオーラルフレイルや口腔機能低下症という考え方に置き換え、地域、多職種とどのように落とし込んでいくかが課題である。8020運動によって80歳で20本以上の歯を有する割合は50%を超えたが、歯周病などによって20本以上有する割合の低下は50歳代から始まっている。さらに70歳以上の高齢者の咀嚼状況の報告では約6割が「何でもかんで食べることができる」一方で、1/3の人たちは「一部噛めない食べ物がある」と、おいしく食べるという楽しみを失っている高齢者も多い。食べるために大切な歯の欠損は咀嚼機能や咬合力低下へと繋がり、噛めない食品の増加、食欲低下、栄養摂取量低下、などの口腔機能低下がフレイル・サイクルに大きく関わっている。全身の筋力低下は口腔の筋力低下にも繋がり、摂食嚥下機能にも悪影響を与えるために、咀嚼力は咬合支持だけではなく、巧緻性に加えて認知機能の影響も受けるとされている。消化管の入口である口腔状態をより良好に保ち「食べられる口」を維持することは、社会性、自立度の維持向上にむけた「正のドミノ倒し」のスターターとして歯科医療が全身状態に寄与すべき役割である。本講座では口腔機能発達不全症から始まる口腔機能の評価について症例を通じて考えていきたい。

高齢者の臨床歯科栄養学 — 講師 花田 信弘 先生（歯科疾患の重症化予防に資する継続管理（口腔機能管理を含む） / 口腔機能の管理）

高齢者の臨床歯科栄養学は、歯科補綴と栄養学の融合が必要な学問分野である。オーラルフレイルを患い噛めない食品が増加するのを放置することが、生活習慣病やフレイルのリスク因子になる。我が国には高齢者医療確保法に基づく特定健康診査・特定保健指導という世界初の健康増進システムがあるので、歯科の専門家と栄養の専門家が連携してこのシステムを利用して地域住民の健康増進活動を推し進めていくことができる。本講演では、①歯科補綴治療の限界と対策②残存歯を守る栄養学の2つに分けて論述する。歯科補綴治療による食品粉砕力と咬合力の向上は栄養摂取の必要条件ではあるが、そのことが直接栄養改善につながるわけではない。歯科の患者は長期にわたって低下した口腔機能に合わせた食品を摂取する習慣を身につけているので、歯科補綴治療の前後で行動変容を促すための栄養指導が必要である。一方で、食品摂取のバランスが悪いと歯科補綴治療の残存歯にう蝕・歯周病を発症させ、重症化させる場合もある。例えばとろみ食で使われる片栗粉や小麦粉などの炭水化物はう蝕の発症リスクになりうる食材である。脂質やタンパク質には必須脂肪酸や必須アミノ酸が含まれているので歯周組織の健全化に必要である。このような背景のもとで、栄養学と歯科医学の融合をどのようにして達成するかを議論したいと思う。

歯科診療における緊急時、偶発症への対応 — 講師 石垣 佳希 先生

医療は本質的に不確実・不確定なもので、医療行為には常にリスクを伴います。医療従事者側に過失のある場合だけでなく過失がなくとも予期せぬ重大な合併症や事故は起こり得ますし、医療行為前後において医療行為とは無関係の症状や加齢に伴う症状が発現することもあります。医療従事者には、患者の安全確保のための不断の努力が求められますが、医療は安全であると信じてやまない患者さんとの間には相互の信頼関係が重要です。また医療機関としては医療の質と安全に関する管理体制や医療事故対策の充実が取り組むべき課題でもあります。さらには診療中の予期せぬ緊急事態への対応や再発防止のための対策も講じなければなりません。全体的偶発症は事前の医療面接などである程度未然に回避することもできますが、症状が重篤な場合は迅速で適切な初期対応を行うことでその進行を阻止して重症化を予防できることから、救急車の到着までに基本的な救急処置を行うことは肝要です。今回は歯科医療の安全と信頼を高めるための偶発症、緊急時の対応についてお話しさせていただきます。

在宅歯科診療における課題対策 — 講師 豊福 毅 先生

超高齢社会の進展にともなう要介護者の急激な増加により、訪問歯科診療は喫緊の課題であるにもかかわらず、通院が困難な方々のもとにも良質な歯科医療の光が届く、十分な体制が構築出来ているとは言いがたい状況です。歯科医院にとって、訪問歯科診療の参入障壁となりがちな問題として、①体制構築（スタッフ採用と教育）、②マネジメント（ルート構築やスケジューリング）③広報・集患活動の3点が挙げられますが、これらの打開策の一例をお話致します。広報・集患活動に関連して、高齢者介護施設においては、訪問歯科診療は既に供給過多と言われていますが、「介護付き有料老人ホーム」や「住宅型有料老人ホーム」、「サービス付き高齢者向け住宅」等における歯科受診率は依然として低いのが現状です。そのような状況になっている原因や、その解決方法についてもご紹介したいと考えています。

上記の研修単位としての申請および修了証発行には視聴順番は問いませんが、すべてのプログラム（各40分）の視聴が必須です。また、健口管理士資格取得には、別途認定審査が必要となりますので、ご確認下さい。

お申し込みはこちらから
スマートフォンやタブレット等からお申し込みいただけます。

